

平成31年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

エンパワメントスクール(ES)としての役割を十分に果たしつつ、成城高校独自の強みを活かし、自律し自立することで社会貢献できる人材を育成する学校

- 学びを大切に、基礎基本の学力充実と夢実現の発展的学力の養成。
- 規範意識を身に付け、自己と他者を大切にできる人間育成と生徒が安心・安全・納得・満足できる学校。
- 自己有用感に満ち、社会貢献できる知識とスキルの習得。

2 中期的目標

1 成城高校がめざすESとしての成果をあげるための取り組み

(1) ESの基本である学び直し学習を着実に、発展的学力や知識習得ための取り組み

ア 「授業改善プロジェクト」にて「主体的・対話的で深い学び」を実現するための取り組みを行い、成城スタンダードを確立する。

中京大学の授業改革研究者との連携を継続し「学習課題」を明確に示し、その成果を実感できる授業を実施する。

* 生徒向け学校教育自己診断における授業満足度（平成30年度は48.5%）を引き上げ、平成31年度は60%、2021年度に80%にする。

イ 成城みらいプロジェクトをさらに充実させ、教頭・首席中心のユニットでのミーティングを中心に、初任者を含む経験の少ない教員のスキルアップを図る

* 相互の授業見学を積極的に行い、良好な人間関係と授業力向上をめざす。

* 5年後の成城を見据えた新たな取り組みを模索し、職員会議に提案する

ウ ICTを活用した学びの充実

* プロジェクター、タブレット等ICT機器の活用方法を一層研究し活用を進める。

* 座学でのICT活用実施者割合を平成31年度は70%とし2021年度は80%を達成する。

2 高い規範意識で自分と他人を大切に、安全・安心で充実した学校生活の送れる学校作り

(1) いじめられ経験や不登校経験をもつ生徒への対応

ア 支援コーディネータを核とした支援委員会と、SC及び担任団を中心としたサポートチームの強化

イ いかなるいじめも許さない・見逃さない指導と、生徒の実態に合わせた生徒指導

* いじめアンケートを各学期に実施し、情報収集と相談しやすい環境づくり

* 一層寄り添う心と丁寧な指導で、生徒の安全で安心な学習環境を維持する。不登校ゼロをめざす

(2) 生徒が充実した高校生活を送るための取り組み強化

ア 学校生活を大切にさせるための取り組み強化

* 2021年度保護者対象学校教育自己診断での「学校に対する満足度」を90%にする。（満足度指数記入欄を設ける）

* 2021年度生徒対象学校教育自己診断で、「学校へ行くのが楽しい」回答を80%にする。

* 総遅刻回数・欠席日数とも前年比各10%減を達成する。

* 中退率維持（平成30年度は0.68%）

イ 部活動の活性化

* 平成31年度、部活動加入率全体70%、1年生80%にする。（平成30年度全体51% 1年生68%）2021年度全体の加入率を80%

ウ 学校環境の整備・・・「発展の三要素」を実践

* 働き方改革・・・会議のスリム化・定例化。重要性と緊急性の見極め徹底。（期日厳守）。職場の整理整頓。あいさつ

3 進路保障

(1) 基礎学力を身に付け、発展的学力を充実させる。

ア 公開授業・研究協議の維持

* 授業公開3回実施。教員相互の授業見学を積極的に行い、毎回レポート提出を提出。

イ 「主体的・対話的で深い学び」の探求・実践・充実

* 教育産業が実施する学力診断テスト用い生徒の学力を定点観測し学力向上をはかる。評価指標であるD3の割合を平成31年度も10%減をめざし

平成2021年度は全体の10%以下を目標とする。

(2) 希望進路の実現をめざし、高いモチベーションを維持するための取り組み

ア 進路指導部主導型の進路指導体制を構築し、卒業時進路未決定者0（ゼロ）実現

* 入学当初の進路希望・夢実現に向けて、やる気にさせる取り組みを実施

* 進路未決定卒業生率を平成31年度以降減少させゼロをめざす。（平成30年度は2名）

イ 社会で役立つ資格等を取得するための取り組みと、進学に向けた英語、数学、国語の進学講習の充実。

* 平成31年度、実用英語検定2級2名、準2級20名、3級50名合格をめざす。平成30年度は2級0名、準2級1名、3級33名

* 平成31年度の資格取得者・検定試験合格者を530名にする。（平成30年度はのべ434名）

ウ 系列のさらなる充実

* 系列独自の発想で、生徒のニーズに即した仕掛けで、夢の実現を支援する。

4 地域に根差し見守られ、地域に貢献できる学校づくり

(1) 平成31年度入学者選抜志願者確保

ア 「チーム成城」での組織的な情報発信

* 中学校訪問150校実施を組織的に取り組み強化し、それを維持する。（平成30年226校）

* 学校説明会を年5回実施 参加者800名以上を目標とする。（平成30年度は生徒・保護者向け5回計1007名）

* 平成31年度入試入学者の第一志望での入学者数をアンケート調査実施。（平成30年度86%）2021年度までに90%以上を達成する。

イ 地域に見守られ、地域とともに成長する学校づくり

* 文化祭・体育祭に合わせて1000名以上の来場者を維持する。（平成30年度は1033名）

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 年 月実施分]	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 成城高校がめざすESとしての成果をあげるための取り組み	<p>(1) ES の基本である学び直し学習を着実に進め、発展的学力や知識習得ための取組み</p> <p>ア 授業力向上研修の充実</p> <p>イ 初任者を含む経験の少ない教員の教師力向上。</p> <p>ウ ICT を活用した学びの充実</p>	<p>(1)</p> <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「授業改善プロジェクト」を機能させ授業力向上目的とした研修の企画、立案、実施を計画的に行う。 ・「成城みらいプロジェクト」を充実させ、未来を見据えた人材育成と、新たな取り組みへの着手 ・授業見学週間の充実。 <p>ウ・新しい取り組みを積極的に取り入れ、生徒の学ぶ意欲を充実させる。</p>	<p>(1)</p> <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「わかる授業」「楽しい授業」を実現し、生徒向け学校教育自己診断における授業満足度を31年度は70%に引き上げる。 (平成30年度は48.5%) ・月一回の教頭・首席が中心となるユニットミーティングを実施 ・授業観察用紙提出数目標 100枚とする。(様式変更) (平成30年度 62枚) ・宿題の提出率90%以上をめざす。 <p>ウ・生徒向け学校教育自己診断において「授業などでタブレットやプロジェクター、コンピューターを活用している」の項目の満足度を85%にする。(平成30年度は64%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICT活用実施者を平成31年度70%以上を維持する。 	

<p>2 高い規範意識で自分と他人を大切にし、安全・安心で充実した学校生活の送れる学校作り</p>	<p>(1) いじめられ経験や不登校経験をもつ生徒への対応の充実 ア 支援コーディネータを核とした支援委員会と、SC 及び担任団を中心としたサポートチームの強化</p> <p>イ いかなるいじめも許さない・見逃さない指導と、生徒の実態に合わせた生徒指導</p> <p>(2) 生徒が充実した高校生活を送るための取り組み強化</p> <p>ア 学校生活を大切にさせるための取り組み強化</p> <p>イ 部活動の活性化</p> <p>ウ 学校環境の整備</p>	<p>(1) ア 組織的対応に欠かせない情報共有のため職員会議には近々の事案・事象の報告を行う</p> <p>イ ・式辞及び生徒集会等において常に学校の姿勢を訴えていく。 ・いじめアンケートを必要に応じて随時行い情報収集に努める。</p> <p>(2) ア・教頭、首席が中心となり、初任者を中心とした教師力向上研修を継続実施。</p> <p>・生徒との対話を通じ、関係性を築くことでの安易な遅刻、欠席相対の防止。</p> <p>・学校生活を最後まで支援する姿勢を貫く。</p> <p>イ・生徒会を充実させ、生徒が中心となって部活動活性化の活動をする。</p> <p>ウ働き方改革 ・会議のスリム化・ペーパーレス化。 ・重要性和緊急性の見極めの徹底。 ・期日、時間の厳守 ・清掃活動の重視 ・あいさつのあふれる環境を意識する。 発展の三要素（挨拶・整理整頓・時間厳守）</p>	<p>(1) ア・いじめが起因する不登校ゼロをめざす。</p> <p>イ ・生徒向け学校教育自己診断における「先生はいじめなどについて私たちが困っていること真剣に対応してくれる」を平成31年度75%とする。 (平成30年度は68.6%)</p> <p>・いじめアンケート3回実施</p> <p>(2) ア・学校教育自己診断の保護者の「学校への満足度」満足度70%をめざす。</p> <p>・「学校へ行くのが楽しい」を75%にする。 ・学校教育自己診断の生徒項目「成城に入学してよかった」を80%目標とする。 (平成30年度は68%)</p> <p>・総遅刻回数・欠席日数とも前年比各10%減を達成する。 (平成30年度遅刻1379回、欠席2705日) ・中退率の維持（平成30年度は0.68%）</p> <p>イ・全学年生徒対象部活動紹介を継続実施する。 (全員体験入部2日) 1年生の部活動加入率80%を実現する。</p> <p>ウ ・学年・分掌・職員会議は基本月に一回とする。 ・教員自らが、期日・時間を守る姿勢を示す。 ・学校教育自己診断の生徒項目「校内美化に努めている」を肯定的回答80%をめざす。 平成30年度は53.4%</p> <p>・朝のあいさつ運動継続。</p>
---	---	---	--

<p>3 進路保障</p>	<p>(1) 基礎学力を身に 着け、発展的学力を 充実させる取組み。 ア公開授業・研究協 議を充実させた授業 改善。</p> <p>イ「主体的・対話的 で深い学び」の探 求・実践・充実</p> <p>(2) 希望進路の実現 をめざし、高いモチ ベーションを維持す るための取組み ア進路指導部主導型 の進路指導体制構築</p> <p>イ社会で役立つ資格 等を得るための 取組みと、進学に 向けた英語、数学、 国語の進学講習の充 実。</p> <p>ウ系列の充実</p>	<p>(1)</p> <p>ア 研究授業、公開授業、授業見学を計画的・ 組織的に実施。各学期に1度</p> <p>イ・教育産業が実施する学力診断テストを継 続し、生徒の学力を定点観測し、生徒のモチ ベーションを上げるとともに、教員のスキル アップの材料とする。</p> <p>・大学と連携を図り「主体的・対話的で深い 学び」の校内研修を実施する。2回計画</p> <p>(2)</p> <p>ア・計画的な進路指導と、保護者懇談等を通じて の情報提供を積極的に行う。</p> <p>・大学・短大進学、就職・公務員・専門学校、 看護医療の4つの係に担当を明確化し、学年 団への指導と進路希望別に生徒への直接指導 を行う。</p> <p>イ・積極的に実用英語検定を受験させる。(1年 生は全員必須) またそのための学習の機会を 設ける。</p> <p>・生徒・保護者への周知・指導強化</p> <p>ウ・各系列が、独自の発想で生徒のニーズに 即した仕掛けで、夢の実現を支援する。</p> <p>・成城セミナー(仮)開催準備</p>	<p>ア・生徒向け学校教育自己 診断における授業満足度を 70%にする。 (平成30年度は48.5%)</p> <p>イ・学力判定指標D3の割合を 10%以下とする。 (平成30年度は8.4%)</p> <p>・職員研修参加率95%を実 現する。平成30年度は92.0%</p> <p>(2)</p> <p>ア・学校教育自己診断にお ける「学校は将来の進路や職 業について、適切な指導を行 っている。」について平成31年 度は90%を目標とする。 (平成30は81.3%) ・卒業時進路未決定者0(ゼ ロ)実現</p> <p>イ・平成31年度は実用英語検定 2級1名準2級10名3級40名 を実現。 (平成30年度は2級 0名 準2級 1名 3級 30名) ・資格取得者・検定試験合格者 を500名にする。 (平成30年度は434名)</p> <p>・系列充実計画案策定</p>	
-------------------	--	--	---	--

